

科目名	担当教員	学期	単位
現代政治理論演習B	谷澤 正嗣	後期	2

講義概要

この演習では、現代政治理論における合理性の概念に焦点を合わせて、重要なテキストの講読と討論を行う。方法論的には「概念分析」と呼ばれる手法を重視する。すなわち特定のconceptが、異なった著者により、異なった文脈の中で、異なった問題に即して、どのように異なった仕方解釈され展開されているか、つまり異なったconceptionを与えられているかを検討する手法である。後期は前期のロールズの読解を前提として、より近年のテキストを検討したい。最初に取り上げるのは、集合的行為論におけるいわゆる「フリー・ライダー」の概念を理論的および思想史的に考察することで合理性の問題に接近している著作、Richard Tuck, Free Riding (Harvard University Press, 2008)の予定である。これ以外のテキストについては講義開始後に受講生と相談のうえで決定する。

シラバス

参加者全員に十分な予習と講義への参加を要求する。第1回のassignmentは講義開始時までに研究科掲示板等で指示するので注意せよ。それ以降の各回については第1回におおよその予定を示すが、学期中に適宜変更される可能性もある。さらに、この演習のテーマに即した研究報告の希望が（とくに、博士課程の学生から）あれば、なるべく歓迎したい。

[第1回] イントロダクション

[第2回] 文献講読

[第3回] 文献講読

[第4回] 文献講読

[第5回] 文献講読

[第6回] 文献講読

[第7回] 文献講読

[第8回] 文献講読

[第9回] 文献講読

[第10回] 文献講読

[第11回] 文献講読

[第12回] 文献講読

[第13回] 文献講読

[第14回] 文献講読

[第15回] 文献講読

教科書

Richard Tuck, Free Riding (Harvard University Press, 2008)

その他のテキストを用いる場合は、講義中に指示する。

参考文献

さしあたり以下のものを挙げておくが、講義中にも随時指示する予定である。

ヤン・エルスター『社会科学の工具箱』（ハーベスト社、1997年）

森脇俊雄『集団・組織』（東京大学出版会、2000年）

評価方法

講義への参加と期末レポートを総合して評価を行う。期末レポートの詳細については受講生と相談のうえで学期中に決定する。

関連URL

備考